

(案)

さくらの景観まちづくり賞 建築物部門

まちの記憶を刻印する
和洋折衷のモダン建築

「ヤマニ味噌」



(並木町・店舗)



受賞理由(案)

佐倉の歴史を感じられる和洋折衷のモダンな建物を、建築当時と大きく変貌させず保全し、味噌蔵と併せ、現在も店舗として使用し続けている点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・ 戦前の洋館付き住宅の様式をよく残すとともに、店舗の構えとも上手く調和しており、成田街道沿いの街並み景観に貴重な趣を添えている。
- ・ 時代を刻印する景観を保ちつつ、歴史的な建造物が味噌の製造販売という用途のもとに現役で使用され続けていること。
- ・ 昭和初期に建築された洋館付き和風住宅として、市役所からも近く、地域において目をひくシンボリックな建築であり、成田街道沿いの景観的にも重要な建築物といえる。

- 京成佐倉駅から市役所へのアクセスルート上にあり、来訪者に佐倉の歴史性を感じていただく上で重要な建築物。
- 成田街道に面した当該地区で、昭和初期に建てられた住宅を使って現在も商いをしている店として景観形成に寄与している。
- 永らく市役所の正面を飾り、日本に古くから伝わる味噌という食材のイメージも手伝って「歴史のまち佐倉」を強く印象付けている。
- 大正時代に流行った和洋折衷のモダン建物。
- 和洋折衷の木造建築を建設当時と大きく変貌させずに修理保全を加えながら、現在も実際に活用していることは素晴らしく、また、佐倉の町並みイメージに大きく貢献している。
- 地場産業の拠点として歴史を感じる、建築様式の異なる建築群が地域のランドマークになっており、地域の景観資源として重要な建造物群である。
- 成田街道沿いに立地し、倉庫群も含め、老舗の風格を感じさせる佇まいとなっている。
- 昔からのロゴマーク「佐倉はお味噌の産地です」の看板も目を引く。
- 歴史的に貴重な建築物が現存するばかりでなく、まちなみの中で現役の事業店舗として使い続けている点が高く評価できる。道路を挟んで存在する倉庫とセットで現存し使われ続けることで、まちなみに貫録を与えるとともに、戦前の佐倉の文化レベルの高さを想起させる貴重な景観資源といえる。

《より良い景観に向けて》

- 洋館の正面下半分が白壁で覆われてしまっている。白壁は、和風建築と洋館に次ぐ第三(店舗)の要素として和洋を上手くつないでいると考えられるが、もう少し洋館前面を見たい気もする。
- 店舗部分の増築の白い壁が印象的でもあるが、洋館側の1階側面も隠れてしまっており、オリジナルな状態に修景することも往時の風景をしのばせてよいのではないかと考えました。
- 見学会など、来訪者が建物に親しむ機会があると良いと思います。
- 老舗としての趣を維持され、佐倉の風情の一つとして、末永く注目される建物として保存されて行かれることを期待したい。
- 倉庫南側に設置された立て看板や、洋館付住宅南側の建物のトタン壁面が目立ち、授賞建物の印象を目立ちにくくしている。歴史的な重厚感を持つ建築物そのものが看板的役割を果たしうるため、そうした効果を最大限に活かした改善機会に期待したい。
- 前面のアスファルト舗装の道路が風情のある材料が敷かれた安全に歩ける歩道として整備されれば、更に親しみと味わいのある街の景観が創り出せるものと期待される。

さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



城下町の歴史と風情を継承する

「薬師坂上住宅」

(宮小路町・個人住宅)



受賞理由(案)

既存樹木や発掘された大正期の石段を活かし、意匠の工夫が凝らされた材料、色彩、屋根形状などを積極的に取り入れた建築が、周辺の環境や歴史に調和していると評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・ 建築物には落ち着いた色彩や意匠が施され、また外構も竹垣や生け垣が用いられるなど、緑豊かな薬師坂、武家屋敷周辺の景観とよく調和している。
- ・ 既存樹や既存工作物を活用した敷地計画への配慮が見られること。
- ・ 新築戸建て住宅ながら、敷地にあった遺構や樹木を活かし、周囲の環境とも調和したデザインとなっている。
- ・ 材料、色彩、屋根形状の意匠の工夫が見られ、評価に値する。
- ・ 武家屋敷通りにふさわしい落ち着いた外観の建築物もさることながら、既存樹木の保全や周辺との

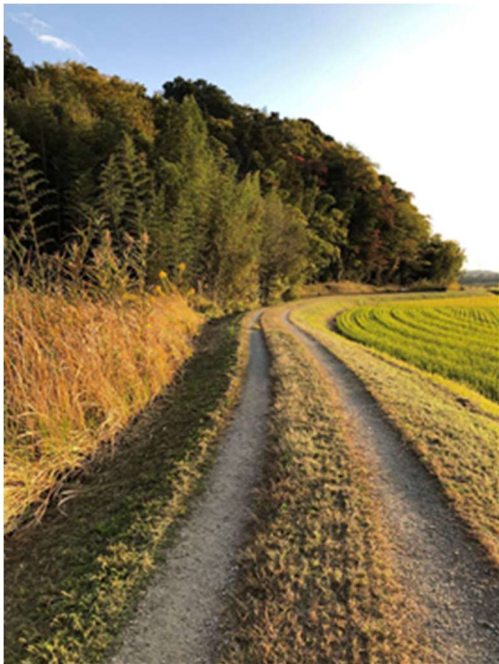
連続性を考慮した敷地際の処理など、当地の歴史的蓄積を尊重した環境計画全般が素晴らしい。

- 武家屋敷通りに向かう手前の和風の住宅で、生け垣にはマキの植栽をしており、武家屋敷通り景観の連続性を意識した配慮がみられ、評価される。
- 崖と雑木・竹が覆いかぶさるように、昼間でもひっそりとした風情のある薬師坂。敷地は雑木が終わって開けた感じになる坂の最上部の角地に新築された住宅で、落ち着いた色合いの左官材料と木材の外観が特徴的である。
- 薬師坂に面した古い石段を庭への入口として利用するなどこの地域の歴史を引き継いでいる在り方が評価される。
- 既存のケヤキの大木や、家の入口で発掘された大正期の石段をそのまま活用しており、薬師坂の歴史的景観に寄与している。
- 立地場所周辺的环境に配慮した建物となっており、和の風情を感じる。
- 建築に当たり、樺をはじめ、竹林を残し、自然に配慮した工夫がされている。
- 城下町地区に調和するように設計されたこと。
- 建築のコンセプト(※)も素晴らしい。(※佐倉の歴史と文化、薬師坂の自然や土地の記憶を継承する)
- 既存遺構の発掘活用、樹木の保存。
- 当住宅が位置する場所と佐倉の歴史と文化を十分に理解されたうえで、施工された住宅であると感じる。特に、埋没していた石段を再活用し、また樺の大木を残し風景に取り込んだ素晴らしい景観である。
- 既存の竹林、樺を巧みに取り込んだレイアウトが素晴らしい。
- 武家屋敷通りを意識した樹種の生垣・法面の整備に地域への協調性を感じる。
- 一般的な住宅建築も多く立ち並ぶ当該エリアに置いて、建築の設えのみでなく、既存の樺や発掘・活用した石段、新たに整備した竹垣＋生垣など外構まできめ細かに配慮工夫された点が高く評価できる。個人住宅でありながら、土地の特性を丁寧に探し活かした新築住宅の存在は、今後、当該エリアでの建替え・住み替えの模範事例となると考えられる。

《より良い景観に向けて》

- 周辺竹林の景観を取り込んだ庭園の整備や外構部分のさらなる緑化など、今後のランドスケープデザインのさらなる充実に期待したい。
- 今後とも周辺環境と調和した暮らしを続けていっていただくことを期待する。
- 東面においては、大正期の石段と竹垣による生垣が設置されているのに対し、北側道路面に接する駐車場の外構について、コンクリートブロック積みとなっており、建物を引き立てるうえからも、何らかの工夫を望みたい。
- 今後も、佐倉の歴史と文化に沿った景観維持と保全を期待したい。
- 新たに整備した生垣の成長が待ち遠しい。
- 樺は巨木化しやすく、落ち葉も激しい樹種であることから、居住者のライフステージに応じて無理のない植栽管理を確立されたい。
- 城下町地区全体がこのような歴史と文化を継承するような考えで新築、改築されたら素晴らしい。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



佐倉の原風景

「太田工区、太田農家組合」

(太田・田園風景)



受賞理由(案)

佐倉の原風景といえる田園風景の維持管理に、長年にわたり高頻度で努めており、近隣住民の散歩道として安全で快適な空間、視点場を提供している点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・ 生産活動(農業)の為だけでなく、近隣住民のウォーキングや散歩のルートとしても使われる安全で快適な環境、鹿島川沿いに広がる広大な田園景観を臨む視点場を提供している。
- ・ 長年にわたり地域社会が共同で環境・景観を管理してきたこと。
- ・ 1年に7回という高頻度での草刈りを実施し、農地保全から景観維持の観点として、多大な労力によって環境が守られていることがうかがえる地域に根ざした活動である。
- ・ 佐倉の原風景ともいえる谷津田の風景とそれを楽しむ視点場を同時に保全・整備している。
- ・ ガードレールや街路灯もない、自然な農地と周辺景観を体感できる希少な場所。

- 本地域は、低い丘陵部と田園が一体化した棚田風景的な景観を形成している。この裾部の維持管理を地域の人たちで行っており、その活動は評価される。
- 地域の住民が協力して地域の環境をより良好な状態に維持して、地域住民や来訪者の愛着を喚起することはどの地域にも必要なことで素晴らしい活動ですが、これを公費でなく自らの意思で継続する事はとても難しいことである。
- 農地の維持管理のみならず、安全、利便性の向上、美しい田園風景の景観維持につながっていること。
- 多頻度にわたり、景観等を考慮しながら活動されている点。
- 後継者不足により耕作放棄地が目立つ状況下において、農地の維持管理に努められる、地域住民が散歩道として利用するなど、素晴らしい田園風景の形成に寄与し、生態系の保全にもつながっていくものと思われる。
- 地域を挙げての定期的かつ継続的な保全活動は、農業活動の一環であるが、しかし佐倉の里山や自然景観維持に大きく貢献している。このような地道な活動があったからこそ佐倉の自然が保たれていることを市民に知らせたい。
- 佐倉の原風景のひとつである田園の景観を守るため、維持管理に努められている重要な活動である。
- のどかな田園風景の代表景ともいべき文化的景観が、丁寧に人の手が入り続け、農地・水路・土手・農道とセットで保全され続けており高く評価できる。日常の生活や営農の中で、当たり前に見える風景の価値には気づきにくく、失われる場合が少なくない。当該活動は、風景の価値に気づき、それを維持し続けている、という点が素晴らしい。

《より良い景観に向けて》

- 定期的な植生管理、水路の土砂の浚渫等によって、台地と低地の移行帯(エコトーン)に相当する区域の水循環や生物多様性にも寄与していると考えられる。今後はそうした視点からの活動も行えると活動の意義がより深まると考えられる。
- 竹林の拡大が懸念される。
- 太田から寺崎にかけての風情ある景観の散歩コースを看板などで案内できれば、より効果的である。また、佐倉市内のこうした散歩コースをまとめたガイドを、WEBや紙面で公開することができれば、景観保全や観光目的だけでなく市民の健康増進など、他のジャンルへの広がりをもった佐倉市行政の政策としても企画することが期待できる。
- 保全整備組織の拡充を図り、この活動が長く継続していくことを期待したい。
- 現状の活動頻度を維持いただけると素晴らしい。
- 今後は、総武本線車窓からの景観に配慮した美しい田園風景の維持管理に期待する。
- 田園の景観の維持管理が農家と近隣住民の交流活動の場になることを期待する。
- 田園風景の維持・保全は、農業を営む当事者に委ねられがちである一方、当事者の高齢化や後継者不足、労力過多など、営農の継続自体が危ぶまれる場合も少なくない。授賞を機に、現在の継続的な保全活動が将来的にも持続可能か、数年に1度自己点検するとともに、行政側では、景観維持の観点から確認・相談・支援の仕組みがあると良い。

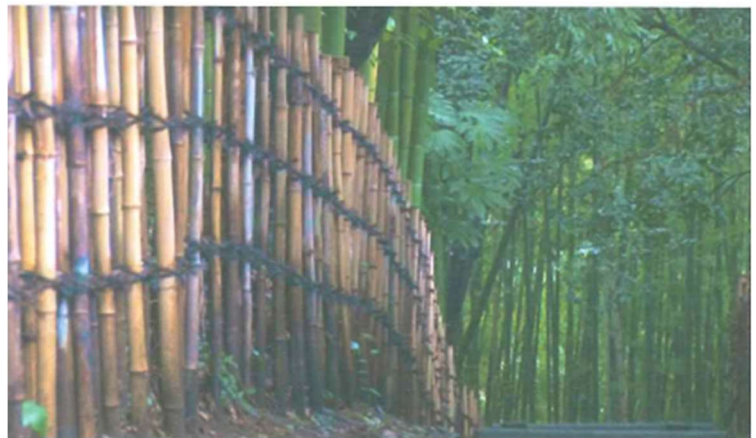
さくらの景観まちづくり賞 活動部門



城下町佐倉の観光拠点を彩る
地域が育んだ竹垣ものがたり

「さくら竹垣物語 25」

(宮小路町他・竹垣整備)



受賞理由(案)

自主的に組織を展開し、地域の景観維持活動を行っている点、観光名所の竹垣整備を行い、佐倉らしい景観形成に寄与し、城下町佐倉のイメージアップに貢献している点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・ 竹垣による景観まちづくりという、持続的な植生管理と資源循環、地域性のある景観形成に寄与するところが大きい活動を、市内の様々な場所で展開している。
- ・ 市民カレッジにおけるまちづくりの授業をきっかけとして自主的に活動を組織、展開してきたこと。
- ・ 自然素材を活かした手作りによる管理活動ながら、佐倉らしい景観形成に寄与していると考えられる。
- ・ 市民のボランティア活動による修景活動として、非常に評価できる取り組みである。
- ・ 城下町・佐倉の景観を印象づける地道ながら重要な地域活動。

- 地域特性を踏まえた、他に例の少ない特徴的な活動となっている。
- 竹材の地域循環や自然景観の保全にもつながっている。
- 公民館でまちづくり学習を学んだ市民が、卒業後も自主的に地域の景観維持活動をしているという点が評価される。中でも、武家屋敷通りに続く「ひよどり坂」は竹林のある坂道として知られるが、「ひよどり坂」は武家屋敷通りと一体化した佐倉の城下町景観を成しており、その竹垣整備に着目された点は評価される。
- 活動自体も佐倉という地域の特徴を効果的にPRするものであるが、市民カレッジの同期生が継続してつながりを持ち、一つの目的に向かって活動する仲間として交流をしていることが特に素晴らしい。市民カレッジのお手本ともいえるあり方を自主的に実践しているところが称賛される。
- 佐倉を代表する観光名所をボランティアで竹垣整備されていることに 感銘うける。
- 城下町佐倉のイメージアップ、そして景観維持の地道な努力を感じる素晴らしい活動である。
- 城下町地区では、こちらの活動による竹垣の修景が、景観向上の装置として不可欠なものになっている。景観整備上重要な活動である。
- 竹林に囲まれた「ひよどり坂」に設置の老朽化した竹垣の整備に着手するとともに、定期的に清掃・維持管理に努められ、年間を通して多くの観光客が訪れるスポットの一つとなっている。
- 佐倉市内の趣ある場所には竹垣がある、佐倉には竹の文化がある、との印象を抱かせる景観を創出しており、景観まちづくりの模範的取り組みとして高く評価できる。頻繁に更新されていると想起させる、手入れの行き届いた竹垣は、竹林維持にも一役買っていると考えられる。単なる修景の手段にとどまらず、SDGsにも貢献する素晴らしい取り組みであるといえる。

《より良い景観に向けて》

- 市の整備事業などと合わせてさらに展開出来るとより効果的だろうと感じる。
- この活動はぜひ続けてほしいと思う。同時に市民カレッジの同期生だけではなく、他の期の卒業生からも同志を増やすなど、年代を超えて連綿とつながる活動になっていったらと期待する。
- 継続するためにも、人材確保の方策を公民で考えなければならない。
- 長く維持管理ができる体制を確立するうえで、この取り組みが継承されていくことを期待したい。
- 竹垣を整備した場所だけでなく、タケを調達した場所の植生管理、景観管理にも寄与しているはずであり、今後はそうした視点からの活動や紹介も行えると活動の意義がより深まると考えられます。
- 設置場所に応じて様々なタイプの竹垣があり、「自分でもやってみたい」と思わせるような単純な構造の竹垣もあり、興味深い。自宅の外構に気軽に利用してもらうことを考え、竹垣づくりワークショップの開催など、会員以外にも竹垣づくりの輪を広げるような展開も期待したい。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



城下町エリアの玄関口に趣を添える

「佐倉ライオンズクラブ」

(宮小路町・バス停修景)



受賞理由(案)

武家屋敷通り周辺地域の景観形成に貢献している点、バス停というどこにでもありながら、景観形成上あまり考慮されることの少ないインフラに着目した点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・ バス停という、どこにでもありながら、景観形成上あまり考慮されることの少ない重要なインフラに着目し、旧城下町の風情を感じさせる工作物の意匠を施した。
- ・ バス停という、どこにでもありながら日常生活上も観光においても非常に重要なインフラに着目したことで、他のバス停でも同様の取り組みを行っていく可能性が示された。
- ・ 修景活動として、佐倉の歴史を伝える雰囲気作りに一役かっており、評価できる。

- このバス停の待合いは近年老朽化が進んでいたが、京成からもJRからもやや遠いこの宮小路町のバス停を佐倉の旧市街地の入口として捉えて、寄付活動の対象として目をむけた着眼点を高く評価したい。
- 地域性を加味したデザインのバス停が、城下町の雰囲気によくなじんでいる。
- 武家屋敷通りに入るバス停であり、これから向かう武家屋敷のイメージに配慮した和風の建築物といえる。
- この停留所でバスを待つ間、散策したばかりの武家屋敷を思い起こし、城下町佐倉のイメージにぴったりである。
- 市内初の景観に配慮したバス停上屋の整備を行った活動事例として評価できる。
- 切妻屋根により城下町を漂わせる和風建築となっており、バス利用者はもとより、来訪者に対して、心とお空間となっている。
- バスの利便性が高いとは言い難い佐倉市内において、城下町の景観を意識した屋根付きの堅牢なバス停を整備した点で、評価できる。当該箇所は城下町に至る道路であり、バス停がゲート性を有する存在となっている。散策前後の休憩場所としても利用でき、「佐倉市民のおもてなしの心」が現れたスポットといえる。
- 従前のバス停と比較すると、整備の効果は靦面である。
- 和風バス停は城下町の風情を印象付けて良いと感じる。

《より良い景観に向けて》

- 他のバス停への展開が期待される。
- 素材やデザインなどについてさらに市の景観アドバイザーとも相談しながら設計できるとさらに佐倉の特性に応じたものをつくっていくことができると期待する。
- こうしたバス停の待合いが旧市街の様々なところにあると、それだけでも散策が楽しい街になることが期待できる。またバス停に限らず、散策コースの休憩所などの用途としての「あずまや」にも使えそうな意匠であり、今後の継続したまちづくりのアイデアに期待する。
- スペースの問題もあるが、JR～京成佐倉駅間のバス停で同様に和風バス停が設置できたらより良いと期待する。
- バス停上屋自体がシンプルなデザインなので、上屋周辺に植栽を配置すると、一層地域の景観の向上に寄与する施設になると期待される。
- 「ふるさと佐倉のまちづくり」スローガンのもと、景観に寄与した本団体の今後の活動に期待する。
- バス停周辺の観光施設等を紹介するうえから、観光地図等の掲出を検討してみてもどうか。
- 場所をはじめ費用等の問題もあるが、城下町らしさを感じさせる、バス停が増えていくことを期待したい。
- バス利用者に限らず、城下町散策をする際に、雨除けや日陰となる屋根とベンチはありがたい存在といえる。城下町内に同様のバス停を整備する際は、過度な修景を控え、地となる設えのバス停とするなど、場所の特性に応じた複数パターンの整備に期待したい。
- 定期的な保全も必要である。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



多種多様な人が集う、
良好な景観及び地域コミュニティの構築

「白銀小学校区地域まちづくり協議会」

(大蛇町・山林の修景、管理活用)



受賞理由(案)

荒廃した山林を良好な里山に回復、維持している点、小学校の環境教育の場としての活用実績や地域住民の憩いの場となっている点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 市所有の荒廃山林を地域住民が連携・協働して山林の整備、維持管理に自発的、持続的に取り組んできた結果、良好な里山景観が回復維持されていること。
- 里山景観が回復、維持されているだけでなく、散策や休憩など地域住民の憩いの場、近隣小学生の環境学習の場として多面的に利活用されていること。
- 地域住民の努力により荒廃した山林を住民の憩いの場となる里山へと蘇らせた点が素晴らしい。
- 小学校の環境学習の場として用いる事により、子どもたちの地域に対する愛着を育む場にもなっている。

- 行政所有の低未利用地を地域住民によって管理活動を行い、市民が気軽に親しめる里山環境保全を実施している点。
- 当地を活用して里山での環境学習を小学校で活発に行い、環境教育としても成果があること。
- 荒廃していた山林を、地域の人たちが山の原形(低丘陵部)を崩さずに整備を行い、活用している。低丘陵部を生かした整備と言える。
- 国道沿いのコンビニエンスストア裏の小径から大蛇町の外れの市営住宅までの斜面は、いつ訪れても非常に気持ち良い明るい木立の里山となっており、これが「まち協」の方々による絶え間ない維持活動のおかげだと理解した。よりよい環境を地域の方々が自主的に作り出して継続的に守っていることは、まちづくりの基本的でいてお手本となる活動であると感じる。
- 継続して良好な景観を維持されていること。
- 整備をすることにより多種多様な植物が芽吹き、憩いの場にと止まらず、学習の場として活用されていること。
- 市が保有する活用に困っていた荒れ果てた山林を整備して長年にわたり維持管理し、小学校の環境学習の場としても利用されている点。
- 地域住民が協力し合い里山を保全するだけでなく、住民の憩いの散歩道や小学生たちの安全な自然学習の場所として活用されており、景観維持と地域住民及び子供たちにも喜ばれる、Win-Winの素晴らしい活動だと感じる。
- 雑木林を伐採し、里山整備を行い、現在も良好に維持管理されている活動を評価する。
- 良好に維持管理された里山は、白銀交差点周辺の景観の向上に寄与している。
- 荒廃した山林を地域住民自ら、自発的に整備し、里山へと再生させたプロセスには物語性があり、整備後の里山が憩いの場や環境学習の場として活発に活用され続けている点が高く評価できる。活動年数が長いにも関わらず、今なお活動頻度は高く、地域住民に大切に偉入り・利用し続けられている愛される里山へと成長していることがうかがえる。住環境近くの魅力的な里山の存在は、住民らの防災・減災意識や環境意識の醸成の点からも評価できる景観まちづくり活動の好例といえる。

《より良い景観に向けて》

- 里山の維持管理のノウハウの持続的な継承、活動の継続。
- 今後さらにこうした取り組みを拡充するべく、さらに市と連携できると良い。
- 佐倉市内のすべての地域が、その特徴を生かして自主的なまちづくりをみつけて続けてゆく事が、これから選ばれる街として必要なことである。
- こうした活動が次々と生まれるような、地域の自主性を育てる施策を行政の各課が連携して進められることを期待する。
- この取り組みを広く周知することにより、多くの賛同者が集まり、組織がより強固なものとなっていくことを期待したい。
- そのような里山があることを知らなかったが、今回の受賞により、一般市民も存在を知らされ、散策に訪れる市民が増えることを期待する。
- 野花に名札などをつけることができるとさらに良い。
- 周辺には集合住宅などあり、近隣住民にとって憩いの場として機能していることがうかがえる。願わく

は、里山もしくは園路(散歩道)の愛称などを付け、住環境に近接する豊かな場として、愛着を持って空間を育て続けてほしい。

- 定期的に保全もされている。今後も、このような活動が継続することを期待する。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



地域と学校が連携した、
良好な景観及び学習機会の構築

「佐倉東部地区社会福祉協議会」

(高岡・竹林の修景、管理活用)



受賞理由(案)

荒廃した公用地について、隣接する中学校の生徒の思いやアイデアを元に整備を行い環境学習の場として利活用されている点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・ 社会福祉協議会が隣接する中学校やPTAに働きかけ、連携しながら子どもたちの環境学習の場として、特徴的な維持管理、利活用を展開、地域の荒廃した環境資源(竹林や雑木林)を蘇らせたこと。
- ・ 吹奏楽部の演奏、自然観察、竹林管理、椎茸栽培など、里山の様々な活動の可能性が模索され、環境資源の価値を高める活動が継続されていること。
- ・ 地域の複数団体が連携し、市所有の管理が行き届かない荒廃山林を管理している点。
- ・ 地元組織との連携によって、当地の樹林地を個性的に保全している点。
- ・ 子どもたちの描いたビジョンの実現という計画から管理と段階が明確であること。また、その各段階に

多様な主体が参画していること。

- 地域住民の努力により荒廃した山林を住民の憩いの場となる里山へと蘇らせた点が素晴らしい。
- 中学校の環境学習の場として、また、吹奏楽の演奏の場として用いる事により、子どもたちの地域に対する愛着を育む場にもなっている。
- 地域住民が中学生と連携しながら荒れていた当該地を学校林として整備し、中学生の環境学習に利用されているということが評価できる。
- 荒廃していた公有地をただ労力をかけて維持するのではなく、逆に利用する価値のある場所として創り出そうというコンセプトが素晴らしい。
- 整備した後も、学校との協働活動として実際に利用しつづけて、若者たちに実践して見せている運営としての企画も素晴らしいと感じる。
- 民学連携により景観整備にあたっていること。
- 生徒の学習環境の場として有効活用されていること。
- 子供たちが描いた絵やアイデアをもとに、子供たちの環境学習の場として整備、維持管理されていること
- 吹奏楽部の演奏の場、環境学習、地域交流の場として活用されている。
- 大人たちだけの景観維持活動でなく、中学生が一緒に加わり、自ら自然保全の大切を学び、そして、その結果を肌で感ずることができる素晴らしい活動である。また、将来、この活動に参加した中学生たちが、大人になりこの活動を思い出し、このような活動に参加してくれることを期待する。
- 未利用のまま荒廃していた箇所を、学校林用地という土地の特性を最大限活かした活動へと展開させた事業構想力・推進力や、整備後の継続的・発展的な利活用が高く評価できる。とりわけ、学校教育の場として多岐にわたる活用が行われつつ、適切な維持管理も継続するには、協議会とPTA・学校のきめ細かな調整と連携が不可欠であり、高度な交流活動の場が形成された素晴らしい景観まちづくり活動であるといえる。

《より良い景観に向けて》

- 里山を中学校の第二の校庭、学習林として整備、活用していくための様々な活動の展開を今後も期待する。
- 既に検討済みと思われませんが、目指す植生のイメージと利活用のバランスなど検討しながら取り組むとより学習林らしい活動の場になると期待する。
- 今後さらにこうした取り組みを拡充するべく、さらに市と連携できると良い。
- この取り組みが、後世に引き継がれ、良好な景観と環境学習の場として維持されていくことを期待したい。
- 国道沿いの竹やぶの荒れ地を整備し、道路側からの景観整備を行ない、地域の景観向上に寄与する活動に期待する。
- 資料にはこの場所の名前・愛称が見受けられなかった。もしまだ無いようであれば、永く愛着を持ってこの場所が維持・利活用されることを祈念して、生徒たちと場所の名付・愛称付けを行うと良い。
- この林で学んだ卒業生が大人になって、この場所での維持・交流に参画できるような循環が生まれるとより良い活動へと展開が期待できる。

- この環境学習の場は木々に囲まれていて道路からハッキリ見えないところが良さであるが、国道と直交する高岡の坂道から少し雰囲気が窺えると、自動車で行く多くの人たちが認識できるので、ほかの地域にも波及効果が期待される。
- かなり広い敷地であり、このような土地は一度手入れをやめると元に戻ります。全体敷地をどのように手入れするのが、景観維持の鍵かと思います。